

座席位置とエゴグラム及び情動知能の関係

○多根井重晴 (日本薬科大学)
豊田弘司 (奈良教育大学)
安西和紀 # (日本薬科大学)

岡村季光 (奈良学園大学)
陳 福士 # (日本薬科大学)

キーワード：座席位置，エゴグラム，情動知能

学校における環境の整備は重要な課題であるが，中でも座席位置は児童・生徒の居場所 (豊田・吉田，2012) との関わりがあり，注目すべき要素である。座席位置は，視線，距離，動機づけの関係によって決まり，距離は親密度と関係があり，視線は状況によって親愛と敵意という異なる機能を持つという (Cook, 1970)。従来の研究では座席位置と様々な心理特性の関係が検討されてきた。例えば，リーダーシップ (Hare & Bales, 1963; Howell & Becker, 1962)，自己概念 (Dykman & Reis, 1979)，Y-G による性格特性 (北川，1980; 渋谷，1986)，授業に対する意欲 (北川，2003) 等である。従来の研究では，実際の座席位置による違いを検討したが，仮想場面における座席位置の違いによっても，心理的特性の違いが見いだせる可能性はある。前報 (多根井・豊田，2018) では，本報でも用いる 2 つの仮想場面における座席選択と相互独立-相互協調的自己観 (高田，2000) の関係を検討し，仮想場面 (Figure 1) における座席 3 を選択した者は個の認識・主張及び独断性が，他の座席を選択した者よりも低かった。本報では，同じ仮想場面における座席選択とエゴグラム及び情動知能の関係を検討する。

方 法

調査対象 大学生及び専門学校生 132 名。これらの調査対象には年齢及び性別はたずねていない。

調査内容

a) 仮想場面における座席の選択

参加者に Figure 1 の仮想場面における座席位置を選択させた。

仮想場面 あなたは，ある教職に関するセミナーに参加し，はじめて会った人たち 4 名と，話し合っ，一つの結論を出すように指示されました。さて，あなたは，どの座席に座りますか？

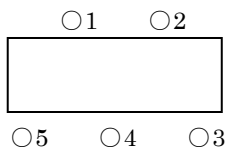


Figure 1 本報で用いられた仮想場面

b) エゴグラム・チェックリスト 杉田 (1990) による尺度。CP (「後輩がミスをするときすぐにとがめますか。」)，NP (「人から道を聞かれたとき，親切に教えてあげますか。」)，A (「感情的というよりも，理性的なほうですか。」)，FC (「うれしいときや悲しいときに，顔や動作にすぐ表しますか。」) 及び AC (「あなたは遠慮がちで消極的なほうですか。」) の各尺度に対応する項目が 10 項目ずつ，合計 50 項目。2 件法で回答。なお，原版では，「どちらでもない」という回答も含めた 3 件法であるが，豊田 (2010) と同じく，回答のしやすさとエゴグラムの特徴が見えやすいように 2 件法を採用した。

c) 日本版 (J-WLEIS) 豊田・山本 (2010) による尺度で「自己の情動評価」，「他者の情動評価」，「情動の利用」及び「情動の調節」という下位尺度 (4 項目ずつ) から構成。回答は 7 件法。

結果と考察

選択率 各座席の選択率を算出すると，座席 1 が 23%，座席 2 が 21%，座席 3 が 13%，座席 4 が 7%，座席 5 が 36% であった。前報と同じく，両方から挟まれた座席 4 がパーソナルスペースを侵害される可能性から選択されない可能性が高い。

座席選択とエゴグラム及び情動知能との関係 エゴグラムにおける AC 得点と座席選択との間に関連が認められた。すなわち，座席 1 及び 2 を選択した者の AC 得点 ($M=10.00$, $SD=5.74$) が座席 3, 4 及び 5 を選択した者の AC 得点 ($M=12.49$, $SD=4.84$) よりも低かった。リーダーシップに関する研究 (Hare & Bales, 1963) によれば，席数が少ない座席列を選択する者がその席数が多い座席列を選択する者よりもその座席での話合いのリーダーになる確率の高いことが示されている。この視点からすると，座席数の多い列を選択した者はフォロアーになる可能性が高いことになり，それは AC の順応的自我状態 (期待に応えようとする自我) を反映していると解釈できよう。なお，情動知能尺度 (J-WLEIS) と座席選択との関連は見いだせなかった。今後，さらに多様な特性に関する検討を行うことが課題である。